

〈都市再生のプロフェッショナルを育成するカリキュラム〉

		1 限目 18:20 ～ 19:50	講師	2 限目 20:00 ～ 21:30	講師
前期	1/20	リノベーションまちづくりとは	嶋田洋平	地域の課題を事業で解決する	小野裕之
	1/27	都市解析〈定量分析〉	片岡寛之	都市解析演習	片岡寛之
	2/3	都市解析〈考現学1〉	清水義次	新しい場づくりの可能性	中村真広
	2/10	都市解析〈考現学2〉	清水義次	発明の時代のまちづくり	西村 浩
	2/17	都市解析〈考現学3〉	清水義次	Sensuous City [官能都市] —動詞で評価する新しい都市分析—	島原文丈
	2/24	エリア・マーケティング論1	明石卓巳	エリア・マーケティング論2	加藤寛之
	3/2	都市の歴史から資源を見つける	三浦 展	都市解析 〈夜の考現学〉	岡崎正信
	3/16	地域資源の見つけ方1	石神夏希	地域資源の見つけ方2	柿原優紀
	3/23	共感を生むプロモーションの方法論1	大島芳彦	共感を生むプロモーションの方法論2	青木 純
	3/30	クリエイティブ・ディレクション論	大島芳彦	現代版家守事業の方法論 ～パブリックマインドと エリア・プロデュース&マネジメント論～	清水義次
【e-ラーニング】 インターネット動画配信によるレクチャー					
後期	5/18	家守会社のコンセプト論	嶋田洋平	プロジェクトチーム・メイキング	大島芳彦
	6/1	建築の産業論1	松村秀一	建築の産業論2	松村秀一
	6/8	空き家のデューデリジェンス	馬場正尊	現状把握のための建築構造論	長坂健太郎
	6/15	リノベーションの事業計画とファイナンス論	林 厚見	選択と集中のコスト・コントロール & バリュー・エンジニアリング	(調整中)
	6/22	リノベーション事業スキームの構築	嶋田洋平	会社法 ～会社のカタチのデザイン～	平松 圭
	6/29	エリアの価値構造変化を起こす構想力	木下 青	表にはあらわれない仕事	(調整中)
	7/6	課題解決とプロジェクト・マネジメント論	吉里裕也	企業やオーナーに効く プレゼンと企画書の作り方	馬場正尊
	7/13	セルフビルド・DIY 論	中田裕一	既存建築物の建築法規とコツ	宮部浩幸
	7/20	リノベーションの建築デザイン論1	(調整中)	リノベーションの建築デザイン論2	(調整中)
	7/27	クリエイティブ事業者のための 財務諸表分析と戦略的管理会計	山内真理	クリエイティブ事業者のための法務	水野 祐

※カリキュラムの内容や順番は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

概要

期間／ 前期: 2016年1月20日(水) ~ 2016年3月30日(水)
後期: 2016年5月18日(水) ~ 2016年7月27日(水)

時間／ 毎週水曜日 90分×2コマ×10週
18:20 ~ 19:50, 20:00 ~ 21:30
このほか、e-ラーニングにて教材をご用意しています。

定員／ 40名

受講料／ 前期: 300,000円(税抜) / 後期: 300,000円(税抜)
※よりリアルな題材に触れるため、前期と後期の間に開催される短期集中のリノベーションスクールにも合わせて参加されることをおすすめします。

申込／ 本スクールのウェブサイトにて、お申込ください。

www.renovationschool-pro.jp

Access



- ・東京メトロ銀座線末広町駅
4番出口より徒歩1分
- ・東京メトロ千代田線湯島駅
6番出口より徒歩3分
- ・都営大江戸線上野御徒町駅
A1番出口より徒歩6分
- ・JR御徒町駅南口より徒歩7分
- ・JR秋葉原駅電気街口より徒歩8分
- ・JR御茶ノ水駅聖橋口より徒歩15分

※本施設には駐車場・駐輪場がございません。
ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

2016年1月 東京・神田で開校!

**RENOVATION
SCHOOL**
リノベーションスクール

Professional Course
プロフェッショナルコース

これからのまちづくりに本気で挑戦したい人のために、
建築、不動産、デザイン、マーケティング、メディア、
各界のプランナーが日本各地から集い、
新しい都市計画の方法論を学ぶ学校を始めます。

領域を広く横断すれば、新たな方法が見えてくるはず。
今、ここでなければできないことを、ここから始めよう。

プロフェッショナルコース
プリンシパル

馬場正尊

Masataka Baba

Open A Ltd. 代表取締役

1968年佐賀県生まれ。博覧会で博覧会やショールームの企画などに従事。その後、建築とサブカルチャーをつなぐ雑誌「A」の編集長を務める。2003年Open Aを設立し建築設計、都市計画、執筆などを行う。同じ時期に「東京R不動産」を始める。2008年より東北芸術工科大学准教授。建築の近作として「TABLOID」(2010)、「観月橋団地」(2012)、「道頓堀角座」(2013)など。近著は「RePUBLIC公共空間のリノベーション」(学芸出版,2013)、「PUBLIC DESIGN 新しい公共空間のつくりかた」(学芸出版,2015)。

これからの都市とまちをつくる

馬場：2011年から開催している「リノベーションスクール」では、全国各地でリノベーションを通じた新しい手法での都市再生に取り組んでいます。例えば、古いビルをリノベーションして、まちに人を呼び込むゲストハウスを開いたり。毎回あらゆる業界のトップランナーが講師としてやって来て、彼らが社会で実験的に実践してきた生の話を聞くことができる。ものすごくユニークな人たちとすごく近い距離感で一緒にやれる環境だね。

大島：そう、これからのリノベーションにおいての最上級の幕の内弁当状態(笑)。

馬場：そんななかで、今回さらに「プロフェッショナルコース」を作ることにした意義ってなんだろう？

大島：さまざまな領域を横断する新しい才能に出会いたいということかな。例えば、僕たちだってある領域のプロフェッショナル。でも、プロでも領域を決めてしまうと、成長は止まってしまうんじゃないかと思う。「スクール」と聞くと、学生が集まるイメージを持たれることも多いけれど、実はそうじゃなくて、プロとして自立しつつある人たちにこそ来てもらいたい。

馬場：この経済状態だからこそ、今の時代のバウ

ハウスみたいなものじゃないかな。20世紀のバウハウスって、いわゆる建築だったり、芸術だったり、工芸だったり、少なくとも20世紀初頭まではバラバラの領域だと思われていたものを「家」という概念で横串に刺して、狂気の講師たちが模索しながらいろんなことを教えていた。リノベーションスクールも、建築やデザイン、メディア、それからマーケティングみたいな今までバラバラな領域でしか存在していなかったものを、リノベーションという概念でつなげていく。僕はそこにとても大きな意義を感じている。

大島：その時、僕は、「あなたのその「串」はなにでできているのか」と問いたい。例えば、建築を学んだ人ならば建築だけれど、必ずしも建築でなくてもいい。今、リノベーションというのは、建築というよりもむしろ「まち」がテーマになっているから。実際、これまでも建築にも不動産にも関係ない業界に属してきた人たちがたくさんいましたよね。

馬場：そう。そもそも、学生の頃、僕も建築学科で、いわゆる建築やデザインを学んでいたけど、実社会に出て現場に立ってみると、不動産の知識だったり、メディアの知識だったり、「なんでこれは教えてくれなかったの？」ということがたくさん必要になっ

たんだよね。

大島：ただ、その時に、自分なりの軸はやっぱり大切。最近、「プロデューサーになりたい」って口にする人が多い。いろんなことをやりたいという。

本当のプロデューサーになるために

馬場：ああ、それは多い。ほんとに。

大島：あれもこれもやって、それを組み合わせたい。でもそれって、軸足もなくやってしまうと、安定感もなく弱すぎると思う。

馬場：この学校には、何らかの軸足が自分の中に固まっている人たちに来て欲しい。軸があるからこそ、領域を横断できるわけだから。

大島：その軸が何だったとしても、支えてくれるはず。確かに、僕も気づけばプロデュース的な仕事をしているけど、「プロデューサー的に動こう！」と掲げているわけでない。

馬場：その時代の課題や地域の課題に、愚直なまでに一生懸命応えようすると、結果的にそうなるというだけだね。

大島：課題に対しての効果を最大化させようと思えば、さまざまなモノや手法を繋ぎあわせていかなければならないということなんです。

馬場：どこかの領域に固執しすぎてしまうと、限界が見えてきてしまうよね。

大島：そう。ひとつの領域だけで先に続く道を見ようとしても、「ここから先は無さそうだ」って感じることもある。きっと、ここに参加してくる人たちも、そう感じるものがあつたんじゃないかな。そして、その時に「だったら横はどうなっているんだ？」と見渡してみるような人たちには大きな可能性があるって僕は感じていて。

馬場：だからこそ、軸を持って横の領域を広げながら社会にアプローチしていく。そういうことを実践できる場にしたい。

大島：これまでの受講生にも、自らのプロフェッショナルを発展させて事業を始めている人が結構いますよ。

馬場：ほんの数ヶ月で変わっていく人たちがいて、たくさんの事業が生まれた。見ていて気持ちがいいほどに。時には、僕たちも生徒側だった人と仕事をし始めることもある。

大島：ただ学ぶという線引きではなく、そんな新しい仕事づくりや人との出会いという、今、みんなが求めているリアルなものが生まれる場を用意している。だから、これまでの意識を超越する体験をしに来てほしい。

プロフェッショナルコース
ヘッドマスター

大島芳彦

Yoshihiko Oshima

株式会社 ブルースタジオ 専務取締役

1970年東京都生まれ。1998年石本建築事務所入社。2000年よりブルースタジオにてリノベーションをテーマに建築設計、コンサルティングを展開。活動域はデザインに留まらず不動産流通、マーケティング、ブランディングなど多岐にわたる。大規模都市型コンバージョンや大規模団地再生プロジェクトなどを手掛ける一方で、エンドユーザー向けに物件探しからはじめる個人邸リノベーションサービスも多数展開。近年では地域再生のコンサルティング、講演活動で全国各地に足を運ぶ。リノベーションスクールでの実績により「日本建築学会教育賞」を受賞。

今の時代のバウハウス—— ——その横串は何でできている？

〈 各界のトップランナー 30人分の講義を一気に 〉

領域を超えた各界の
トップランナーが
講師として勢ぞろい。
それぞれの実践を
もとに、新しい都市と
まちをつくるために
必要なそれぞれの
手法を語ります。

青木 純
(株)メゾン青樹
代表

日本の賃貸文化をリノベーションし、経産省から表彰されたほかTEDxTokyo2014登壇やニューヨークタイムズ誌掲載など世界からも注目される。大家である自らを「まちの採用担当」と表現。運営する不動産には暮らしのデザイン力が高い入居者が集う。

明石卓巳
ルクスグループ
代表

流通系企業で企画デザインを学び、営業職を経て独立。グラフィックデザインをはじめ、リノベーションを軸とした、まちづくり・複合施設・店舗・什器デザイン、地域ブランドの開発・プロデュースなど、国内外を問わず、精力的に活動を行う。

石神夏希
ペビン結構設計/
場所と物語

演劇集団「ペビン結構設計」の劇作家。商店街などでの演劇上演、地域を軸にしたアートプロジェクトの企画や滞在制作を行う。また建物や場所に関するリサーチ・執筆・企画を行うなど、「場所」と「物語」を行き来しながら活動している。

岡崎正信
オガールプラザ(株)代表取締役
内閣官房地域活性化促進部

地域振興整備公団、建設省を経て、現在は家業と共に岩手県紫波町の公民連携事業企画「オガールプロジェクト」の推進に努める。他、自治体職員研修講師、市中金融機関のアドバイザーなど公民連携事業に関する業務全般に携わっている。

小野裕之
greenz.jp 副編集長
NPO法人グリーンズ理事

ウェブサイトなどを制作するベンチャー企業を経て、「greenz.jp」の副編集長に。その後、NPO法人化にともない理事として経営に参画。ライフワークとして、ソーシャルなスタートアップビジネスの事業化を支援している。

柿原優紀
tarakusa(株)
代表

出版社を経て、編集事務所を設立。日本の地域文化などから学びを得たライフスタイルを提案する活動にシフト。「Happy Outdoor Wedding」を立ち上げ、DIYの力を地域空間や資源に結びつける市民型結婚式づくりを全国各地で行う。

片岡寛之
北九州市立大学 准教授/博士
(後)北九州家守舎 取締役

安藤建設(株)にて現場管理業務、(財)北九州都市協会にて調査研究業務を経験し、北九州市立大学都市政策研究所へ。その後、2009年より同大学地域創生学群にて人材育成に携わりながら、2012年より北九州家守舎での兼業をはじめ。

加藤寛之
都市計画家
(後)サルトコラボレイティヴ 代表

丹波市、伊賀市、枚方市、大阪市等で地域に新しいチャレンジを生み出す月1マーケットを開催。衰退地の潜在的な魅力を切り育てつつ、エリアの期待値を高めることにより、リノベーション等のリステイクが可能になるまちづくりに取り組む。

木下 斉
一般社団法人AIA 代表理事
内閣官房地域活性化促進部

高校在学中に全国商店街合同出資会社の社長就任。全国各地でまち会社を立ち上げ、それらの事業連携・政策立案組織である一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス(AIA)を設立。主な著書として「まちづくり：デッドライン」等がある。

嶋田洋平
(株)らいおん建築事務所
代表取締役

みかんぐみを経て、2008年らいおん建築事務所を設立。北九州家守舎、都電家守舎を設立し、縮退エリアにおけるリノベーションまちづくりによる再生事業を行っている。小倉魚町での実践において「日本建築学会教育賞」など多数受賞。

島原万文
(株)ネクスト
HOME'S 総研 所長

リクルート入社後、リサーチ出向配属。グループ内外のクライアント企業のマーケティング戦略のプランニングに携わる。結婚情報誌「ゼクシィ」シリーズのマーケティング担当を経て、HOME'S総研所長に就任。

清水義次
(株)アフタヌーンサティ
代表取締役

マーケティング・コンサルタント会社を経て、(株)アフタヌーンサティ設立。都市生活者の潜在意識の変化に根ざした建築、プロジェクトマネジメント、都市・地域再生プロジェクトを行う。主なプロジェクトとして、3331アーツ千代田など。

長坂健太郎
長坂設計工舎
代表

TIS&PARTNERSを経て、一級建築士事務所・長坂建築設計舎設立。長坂設計工舎一級建築士事務所へ改称。緻密で合理的、無理・無駄のない構造を実現し、構造に対して創造性を持ちながら設計に取り組む。

中田裕一
HandiHouse project
中田製作所

設計・施工会社を経て、中田製作所を設立。「妄想から打ち上げまで」という言葉のもと、デザインから工事のすべてを自分たちの「手」で行う集団HandiHouse projectを始動している。

中村真広
(株)ツクルバ 代表取締役・COO
クリエイティブ・ディレクター

不動産ディベロッパー、ミュージアムデザイン事務所を経て、(株)ツクルバを共同創業。職・食・住の環境について実空間と情報空間を横断した場の発明を行い、クリエイティブ・ディレクターとして様々な自社事業を展開している。

林 厚見
SPEAC 共同代表
東京R不動産 ディレクター

建築学科を卒業後、経営コンサルティング、不動産ディベロッパーを経て、吉里裕也とSPEAC設立。「東京R不動産」や「toolbox」のマネジメントの他、建築・不動産・地域等の開発・再生に関する企画・プロデュースを行う。

平松 圭
sumusee(株) 代表取締役
小僧com(株) 取締役副社長

GMOホスティング&セキュリティ(株)を経て、小僧com入社。設立以来黒字なし、残預金4000万円の状態から抜本的な体制変更および新規事業を立ち上げ、以来4期連続で通期黒字を達成。同社の取締役となり、sumusee設立。

松村秀一
東京大学大学院工学系
研究科建築学専攻 教授

東京大学工学部建築学科卒業。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。ローマ大学、トレント大学、南京大学、大連理工大学、モントリオール大学、ラフバラ大学で客員教授を歴任。「日本建築学会賞(論文)」など多数受賞。

三浦 展
社会デザイン研究者

株式会社バルコ、マーケティング情報誌「アクロス」編集長を経て、三菱総合研究所入社。「カルチャースタディーズ研究所」を設立。消費社会、家族、若者、階層、都市などの研究を踏まえ、新しい時代を予測し、社会デザインを提案している。

水野 祐
弁護士・シティライツ
法律事務所 代表

Arts and Law代表理事、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事、一般社団法人マザーアーキテクチャ監事などを務める。クリエイティブ分野、IT分野、建築不動産分野のサポートに特化したシティライツ法律事務所の代表を務める。

宮部浩幸
SPEAC 取締役/アーキテクト
近畿大学建築学部 准教授

北川原温建築都市研究所、東京大学大学院工学系研究科助教、リスボン工科大学客員研究員を経てSPEACパートナーに。「目黒のテラスハウス」や「葛の家」など、リノベーションを多く手がける。2015年より近畿大学准教授。

山内真理
公認会計士・税理士
Arts and Law 代表理事(共同代表)

ミドルマーケットの上場企業、投資組合などへの法定監査やIPO支援に携わった後に独立。『東京R不動産』および関連サイトのディレクション、建築・不動産の開発・再生のプロデュースやデザイン、地域再生のプランニング等を行う。

吉里裕也
SPEAC 共同代表
東京R不動産代表ディレクター

不動産ディベロッパーにて開発プロジェクトの企画・推進、デザイン等に事したのち独立。『東京R不動産』および関連サイトのディレクション、建築・不動産の開発・再生のプロデュースやデザイン、地域再生のプランニング等を行う。